

全てのビジネスパーソンが持つべき身に着けるべき能力・スキルを、4分類20項目で体系化しています。

分類	スキル
マインド スタンス	デザイン思考／アジャイルな働き方
	新たな価値を生み出す 基礎としてのマインド・スタンス
	生成AI利用において求められるマインド・スタンス
Why	社会の変化
	顧客価値の変化
	競争環境の変化

分類	スキル
What	社会におけるデータ
	データを読む・説明する
	データを扱う
	データによって判断する
	AI
	クラウド
	ハードウェア
	ソフトウェア
How	ネットワーク
	データ・デジタル技術の活用事例
	ツール活用
	セキュリティ
	モラル
	コンプライアンス

さらに、各スキルごとに3つのレベルを設定しています。各項目からバランスよく出題されるため、組織や個人の知識の偏りを可視化することができ、学習すべき項目を把握することができます。

分類	スキル	内容	具体的項目例					
			LV1	LV1 Keyword	LV2	LV2 Keyword	LV3	LV3 Keyword
マインドスタンス	デザイン思考／アジャイルな働き方	顧客・ユーザーのニーズや課題に対応し、既存の概念にとらわれず革新的なアイデアを追求する。小規模な試行を繰り返し、失敗から学びながら進化させていくことができる。	デザイン思考とアジャイルな働き方の基本原則と方法論を学び、革新的なアイデアを生み出す初步的なプロセスを理解する。	・デザイン思考の概要 ・デザイン思考の5つのステップ ・ユーザーインタビュー	実際のプロジェクトにデザイン思考を適用し、アジャイルな手法を用いて迅速にアイデアを試行・評価する。	・ユーザーエクスペリエンス（UX） ・アジャイル ・ユーザーテスト ・PoC/MVP	複雑な問題に対して、デザイン思考とアジャイルな方法論を組み合わせ、持続的なイノベーションを促進する戦略を策定・実行する。	・リーンスタートアップ ・ストーリーマップ ・バリュープロポジションデザイン ・DevOps
	新たな価値を生み出す基礎としてのマインド・スタンス	環境変化に適応し、多様な専門性を持つ人と協働。臨機応変な意思決定と客観的データに基づく判断力を持っている。	環境変化に適応し、新たな価値観や知識を学ぼうとし、様々な情報収集を日常的に行っている。	・新しい技術への興味/関心 -メタバース -Web3 ・新しい価値観や行動様式への適応 -DtoC -テレワーク	多様性を尊重し、多くの人と協業やコラボレーションを行うことや、臨機応変に意思決定を行い、客観的な事実やデータに基づく判断をすることができる。	・オープンイノベーション ・DE&I ・アンコンシャスバイアス ・PEST分析	従来の慣習などに捉われずに、適切なデータの活用を意識し、様々なデータ活用のビジネス事例の知識を持ち、活用することができる。	・レガシーシステム ・匿名加工情報 ・データ活用のビジネス適用
	生成AI利用において求められるマインド・スタンス	生成AIをビジネススキルと組み合わせて生産性向上と変革を目指し、権利侵害や倫理問題に注意。AIの影響を捉え、変化に柔軟に学び続ける。	生成AIのビジネスでの活用方法を理解や、生産性向上に向けた生成AIの基本的な利用に向けた知識を持っている。	・生成AIの基礎知識 ・生成AIの活用事例	生成AI利用時の権利侵害や倫理的な問題に対する注意や、生成AIに関連する倫理規範について情報を集め、自分の言葉で説明することができる。	・生成AIに関する法令理解 ・生成AI利用における倫理規範	生成AIを「問いを立てる」「仮説を立てる・検証する」等のビジネスパーソンとしてのスキルと掛け合わせることで、生産性向上やビジネス変革へ適切に利用することができる。	・生成AIのパーソナライズ化 ・生成AIの他サービスとの連携 ・生成AIによるビジネス変革



DX 基礎能力試験 学習シラバス

分類	スキル	内容	具体的項目例					
			LV1	LV1 Keyword	LV2	LV2 Keyword	LV3	LV3 Keyword
Why	社会の変化	・世界や日本社会におきている変化を理解し、変化の中で人々の暮らしをよりよくし、社会課題を解決するためにデータやデジタル技術の活用が有用であることを知っている	日本社会や企業・組織において、なぜDXが必要とされているか理解するために、社会がどのように変化しているか（世界全体の大きな潮流や社会課題）を理解している。	・メガトレンドや社会課題の基礎知識 ・DXの概念や潮流	バイクシェア・カーシェアなどのシェアリングエコノミーの広がりや、様々なデジタル技術の発達により身の回りの生活にも影響を理解し、自身の仕事や生活でも活用できる。	・第4次産業革命 ・Society5.0で実現される社会 ・データ駆動型社会 ・ディストラクター	テクノロジーの発達や人材の流動化などから国と国との隔たりが無くなってきているため、日本の取り組み状況や、先進的な諸外国の取り組みを知ることが求められる。	・世界の取り組み ・サービス同士が繋がる世界 ・日本政府の取り組み
	顧客価値の変化	・顧客価値の概念を正しく理解し、顧客・ユーザーがデジタル技術の発展によりどのように変わってきたか（情報や製品・サービスへのアクセスの多様化、人それぞれのニーズを満たすことへの欲求の高まり）を知っている	企業が新たな価値を提供するためには、デジタル技術を活用したサービスの提供や自社がユーザーとして既存のサービスを活用することが求められていることを理解している。	・電子書籍 ・XR ・5G ・動画・音楽配信	顧客・ユーザーの行動変化と変化により生まれた新たな言葉や、概念、手法などを理解し、顧客に価値を広く届ける方法を理解し、活用できる。	・広告手法 ・SEO ・LBM (Location Based Marketing) ・フリーミアム	デジタル技術の発展により、パーソナライズされていたサービスやマーケティングが行われたり、今までの技術では実現できなかったシミュレーションや、予測ができるようになっていたりすることを理解し活用できる。	・これからのデータ流通社会 ・ユーザー行動の分析事例
	競争環境の変化	・データ/デジタル技術の進展や、社会・顧客の変化によって、既存ビジネスにおける競争力の源泉が変わったり、従来の業種や国境の垣根を越えたビジネスが広がったりしていることを知っている	デジタル化が進んだことにより、フリーランスや副業人材の活躍の場が広がっていることを理解し、マッチングプラットフォーム等の活用方法を理解している。	・フリーランス、副業人材活用 ・マッチング・エコノミー/シェアリングエコノミー	DXが推進されることによって、今までデジタル化が進んでいなかった業種が大きな変革を起こし、新たなビジネスが生まれている中で、自社がどういった強みで価値を提供できるかを考えることができる。	・一次産業のデジタル化 ・自社の強みの探求 ・デジタルシフト	国際的な視点からデジタル変革が競争環境に与える影響や、国内での会社の枠を越えた取り組みを理解し、世の中のトレンドや潮流を踏まえた戦略を立てることができる。	・国境を越えたデジタルサービスの拡大と規制 ・会社の枠を越えた取り組み ・デジタル技術による国際的な競争の激化



分類	スキル	内容	具体的項目例					
			LV1	LV1 Keyword	LV2	LV2 Keyword	LV3	LV3 Keyword
What	社会におけるデータ	・「データ」には数値だけでなく、文字・画像・音声等、様々な種類があることや、それらがどのように蓄積され、社会で活用されているか理解している	「データ」が数値だけでなく、文字、画像、音声等、様々な種類を含むことを理解する。これらのデータがどのように蓄積され、社会で活用されているかの基本的な知識を持つ。	・行動ログデータ、機械の稼働ログデータ、実験データ、調査データ、生体データ ・社会におけるデータ活用事例	データの種類(1次データ、2次データ)とその特性を理解し、自分が取り扱うデータがどのような種類のデータかを理解した上で活用することができる。	・1次データ、2次データ ・構造化データ、非構造化データ(文字・画像・音声等)メタデータ	IoTの登場、機械学習の普及によって生成されるデータ量が増えていることを理解し、それに伴い進んでいるビッグデータやオープンデータの活用について考えることができる。	・ビッグデータ ・オープンデータ ・アノテーション
	データを読む・説明する	・データの分析手法や結果の読み取り方を理解している ・データの分析結果の意味合いを見抜き、分析の目的や受け取り手に応じて、適切に説明する方法を理解している	データの基本的な分析手法や結果の読み取り方を理解している。分析結果の意味合いを見抜く基本的な能力を持っている	・データや事象の重複に気づく ・条件をそろえた比較 ・誇張表現を見抜く ・集計ミス・記載ミスの特定 ・相関関係と因果関係	データを読み取るうえで必要な基礎的な知識や、データ同士の比較方法に関する知識を身につけ活用することができる。	・質的変数・量的変数 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値・中央値・最頻値) ・データのばらつき(分散・標準偏差・偏差値) ・データの種類(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)	データから読み取った示唆を組織としての意思決定に繋げるために、結果を可視化し、データ分析から得た知見を、組織内外に説得力を持って説明できる。	・データの可視化(棒グラフ・折線グラフ・散布図・ヒートマップなどの作成) ・分析結果の言語化
	データを扱う	・データ活用には、データ抽出・加工に関する様々な手法やデータベース等の技術が欠かせないことを理解している	デジタル技術・サービスに活用しやすいデータの入力や整備の基本的な手法を理解している。保持していないデータの収集方法を考えることができる。	・機械判読可能なデータの作成・表記方法 ・データ収集の手法	デジタル技術・サービスへの活用を目的としたデータの入力、整備、抽出、加工を行え、データ分析の狙いに応じた加工をすることができる。	・データの抽出 ・データクレンジング: 外れ値、異常値 ・フィルタリング・ソート ・結合 ・マッピング ・サンプリング ・集計・変換・演算	データ利用に関する理解を深めるためにデータ利用に欠かせない技術である、データベースの仕組みについて知り、サービスを考える際にデータベースのあり方を考えることができる。	・データベース管理システム ・データベースの種類: リレーショナルデータベース、キーバリュー形式 ・データベースの構造: テーブル、レコード、フィールド ・データベースの設計: データの正規化の概要、ER図



分類	スキル	内容	具体的項目例					
			LV1	LV1 Keyword	LV2	LV2 Keyword	LV3	LV3 Keyword
What	データによって判断する	・業務・事業の構造、分析の目的を理解し、データを分析・活用するためのアプローチを知っている ・期待していた結果とは異なる分析結果が出たとしても、それ自体が重要な知見となることを理解している ・分析の結果から、経営や業務に対する改善のアクションを見出し、アクションの結果どうなったかモニタリングする手法を理解している	データを扱う前提としてデータを何に使うのか、どのような結果が出るのか仮説を構築する重要性を知り、分析結果を基にした意思決定ができる。	・データドリブンな判断プロセス ・仮説構築/仮説の修正 ・一次情報を用いたデータの検証 ・データの信頼性の判断・明示 ・分析結果に基づいた意思決定	適切ではないデータから生み出される結果は、誤った判断を招いたり、結果として大きな損害にもつながり得ることを理解し、データに基づく判断においては、適切なデータや分析手法を用いることができる。	・分析アプローチ設計 ・必要なデータの確保 ・分析対象の構造把握 ・業務分析手法 ・データ・分析手法 ・可視化の方法の設計	データ分析を通じて新たなビジネス機会を発見し、組織内の意思決定プロセスに影響を与えるデータを提示できる。複雑なデータセットを扱い、戦略的な判断を下すことができる。	・モニタリング手法 ・BIツール
	AI	・AIが生まれた背景や、急速に広まった理由を理解している ・AIの仕組みを理解し、AIができること、できないことを知っている ・AI活用の可能性を理解し、精度を高めるためのポイントを知っている	AIが生まれた背景と急速に広まった理由を知っている。AIの基本的な仕組みと、AIができること、できないことを理解している。	・AIの定義 ・AIブームの変遷 ・AIの得意分野/限界 (強いAIと弱いAI等)	AIの最新動向を理解し、それらを組織内での活用に繋げる。人間中心のAI社会原則やELSI (Ethical, Legal and Social Issues) を考慮したAIの活用法を理解し実践する。	・人間中心のAI社会原則 ・ELSIの理解【倫理的・法的・社会的課題 (Ethical, Legal and Social Issues)】	AI活用の可能性を理解し、AIの精度を高めるためのポイントを知っている。組織や社会でよく使われているAIの動向について知識を持つ。	・機械学習 ・ディープラーニング ・プロンプト ・ビッグデータ ・Python
	クラウド	・クラウドの仕組みを理解し、クラウドとオンプレミスの違いを知っている ・クラウドサービスの提供形態を知っている	クラウドの基本的な仕組みを理解し、クラウドとオンプレミスの違いを知っている。ユーザーとして必要なセキュリティ意識を持つ。	・クラウドとオンプレミス ・ユーザーIDとパスワードの設定	クラウドサービスの基本的な提供形態を理解して、それらがどのようにビジネスや日常生活に活用されているかを理解している。	・SaaS、IaaS、PaaS ・クラウドサービスの活用事例 ・ガバメントクラウド	クラウド技術の最新動向を理解し、それらを組織内での活用に繋げる。クラウド技術を利用したビジネスやプロジェクトの実施において、高度な知識とスキルを持つ。	・サービスカタログ ・インフラ (アプリケーション、OS、ハードウェア)



DX 基礎能力試験 学習シラバス

分類	スキル	内容	具体的項目例					
			LV1	LV1 Keyword	LV2	LV2 Keyword	LV3	LV3 Keyword
What	ハードウェア	・PCを構成する重要なパーツの基本的な機能などを理解している ・コンピューティング機能を持つ機器の種類が増えているため、どのような機器がコンピュータとして使用されているのか知っている	コンピュータやスマートフォンなどが動作する基本的な仕組みを知っている。ハードウェアの構成要素となるパーツの機能を理解している	・CPU ・GPU ・メモリ ・ストレージ	入出力の機器や、近年新たに活用されている様々なデバイスについて理解し、どのような活用がされているかについての知識を持つ。	・ウェアラブル端末 ・スマートスピーカー ・センサー ・ドローン	様々な機器がインターネットに繋がる(IoT)の時代において、どのような技術が活用されていたり、どのような製品やサービスが登場しているのかを理解している。	・IoTの概要と仕組み ・シングルボードコンピュータ ・マイコンボード
	ソフトウェア	・日常生活や業務でコンピュータを利用するために、基礎となるコンピュータが動く仕組みやそれらを動かしているソフトウェアの仕組みを知っている ・プロジェクトマネジメントや、サービスマネジメントの全体像、自社で導入されているソフトウェアの機能を理解している	コンピュータが動く仕組みやソフトウェアの仕組みを深く理解し、業務で使用するシステムの可能性と限界を把握している。	・OS、ミドルウェア、アプリケーション ・オープンソースソフトウェア	アルゴリズムなどプログラミングの基本的な仕組みを理解しコンピュータへ指示を出す際の考え方を理解し、主要なプログラミング言語や、最新のトレンドを理解する。	・プログラミング的思考 ・プログラミング言語の分類 ・主要なプログラミング言語	ITを活用した取り組みとして、プロジェクトマネジメントやサービスマネジメントの概要を理解し、自身の業務に活用できるスキルと知識を持つ。	・プロジェクトマネジメントの概要 ・PMBOK ・サービスマネジメントの概要 ・ITSM(ITサービスマネジメント)
	ネットワーク	・ネットワークの基礎的な仕組みを理解している ・インターネットの仕組みや代表的なインターネットサービスを知っている	インターネットの仕組みや代表的なインターネットサービスを理解している。インターネットの基本的な機能と利用方法を知っている。	・電子メール ・5G (モバイル) ・リモート会議等のコミュニケーションサービス ・ネット決済等の金融サービス	ネットワークの基本的な仕組みを知っている。LAN、WANなどのネットワーク方式や、基本的な通信プロトコルを理解している。	・ネットワーク方式 (LAN・WAN) ・接続装置 (ハブ・ルーター) ・通信プロトコル ・IPアドレス/ドメイン ・無線通信 (Wi-Fi等)	ネットワークの仕組みや基本的な考え方を理解した上で、実際に現在のシステムやサービスで使われている技術について理解することができる。	・Cookie ・JavaScript ・HTML ・CSS ・ファイアウォール



DX 基礎能力試験 学習シラバス

分類	スキル	内容	具体的項目例					
			LV1	LV1 Keyword	LV2	LV2 Keyword	LV3	LV3 Keyword
How	データ・デジタル技術の活用事例	・ビジネスにおけるデータ・デジタル技術の活用事例を知っている ・データ・デジタル技術が様々な業務で活用できることを理解し、自身の業務への適用場面を想像できる	個人でユーザーとして活用しているサービスで、データやデジタル技術の活用事例を挙げることができる。その裏側にある技術について説明できる。	・配膳ロボット導入 - 顧客情報を用いた購買傾向の分析 ・バーチャル試着 - サービス、無人コンビニエンスストア	購買履歴に合わせたリコmend機能、ビッグデータを用いたリスティング広告など、デジタルやデータを活用したマーケティング手法について説明できる。	・購買履歴などを活用したリコmend ・ビッグデータを用いたリスティング広告 ・SNS等を活用したマーケティング	企業で活用されている、データやデジタル技術の活用事例を挙げることができ、その裏側にある技術について説明できる。	・製造データの蓄積・分析（スマートファクトリー）、部品の在庫の自動管理・調達 ・ブロックチェーンを用いた生産情報のトラッキング、顧客情報を用いた再配達の予防
	ツール活用	・ツールの活用方法に関する知識を持ち、日々の業務において、状況に合わせて適切なツールを選択できる	日常で活用されているツールの特徴やメリットを理解し、日々の業務において状況に合わせて適切なツールを選択できる。	・コミュニケーションツール：メール、チャット、プロジェクト管理 ・オフィスツール：文字のサイズ・フォント変更、基本的な関数、表の作成、便利なショートカット ・検索エンジン：検索のコツ	生成AIの特徴やメリットを理解し、日々の業務において適切に生成AIを活用し、業務を高度化、効率化することができる。	・画像生成ツール、文章生成ツール、音声生成ツール等の概要 ・指示（プロンプト）の手法	自動化や、ノーコードなどのツールを理解し、日々の業務において、自身の業務を高度化、効率化することができる。	・ノーコード・ローコードツールの基礎知識 ・RPA、AutoMLなどの自動化・内製化ツールの概要
	セキュリティ	・セキュリティ技術の仕組みと個人がとるべき対策に関する知識を持ち、安心してデータやデジタル技術を活用できる	個人がとるべきセキュリティ対策 ・IDやパスワードの管理/アクセス権の設定/認証方法 ・覗き見防止 ・添付ファイル付きメール/社外メールアドレスへの警戒	・個人情報の保護やセキュリティ対策の基本的な知識 ・情報の機密性、完全性、可用性を保つための基本的な方法の理解	セキュリティの3要素の概要と必要性を理解し、3要素の確保のために必要な対策を理解している。	・機密性/完全性/可用性 ・安全管理措置	セキュリティ技術（暗号、ワンタイムパスワード、ブロックチェーン、生体認証）に関する知識を持ち、安全にデータやデジタル技術を活用できる。	・暗号 ・ワンタイムパスワード ・ブロックチェーン ・生体認証



分類	スキル	内容	具体的項目例					
			LV1	LV1 Keyword	LV2	LV2 Keyword	LV3	LV3 Keyword
How	モラル	・個人がインターネット上で自由に情報のやり取りができる時代において求められるモラルを持ち、インターネット上で適切にコミュニケーションできる ・捏造、改ざん、盗用などのデータ分析における禁止事項を知り、適切にデータを活用できる	ネット被害やSNSのトラブル事例を知り、インターネット上でコミュニケーションの基本的なモラルを理解している。	・ネット被害・SNS等のトラブルの事例・対策 ・写真の位置情報による住所の流出 ・アカウントの乗っ取り/炎上 ・名誉毀損	データ分析における禁止事項（捏造、改ざん、盗用など）を知り、データを倫理的に利用する方法を理解している。	・データ利用における禁止事項や留意事項 ・結果の捏造 ・実験データの盗用 ・恣意的な結果の抽出	生成AIなどの利用のための入力情報がどのように利用されるかを理解し、適切に活用することができる。また、新しいツールや技術に関する法令にアンテナを張り、対応をすることができる。	・生成AIのリスク ・生成AIとの付き合い方 ・生成AIのトラブル事例 ・生成AI関連の法令 ・生成AIをめぐる世界の動向
	コンプライアンス	・プライバシー、知的財産権、著作権の示すものや、その保護のための法律、諸外国におけるデータ規制等について知っている ・実際の業務でデータや技術を活用するときに、自身の業務が法規制に照らして問題ないか確認できる	業務で顧客データを扱う際や私生活の中で個人情報保護法、不正競争防止法に反することがないように取り扱いルールを理解している。	・個人情報の取り扱いルール ・業界団体等の示すプライバシー関連ガイドライン ・不正競争防止法	サービス利用規約などを適切に読み解くことができ、実際の業務での個人情報の適切な扱いや知的財産権を尊重することができる。	・サービス提供側における入力データの管理/利用方法の確認 ・著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権	諸外国におけるデータ規制の内容や動向を理解し、サービス展開の参考とすることができる。	・GDPR ・CCPA ・その他産業データの保護規制